

今月の特集関連本 ⑦



シン・ニホン

AI×データ時代における日本の再生と人材育成

安宅和人＝著

本体 2,400 円＋税／A5 判・444 頁／NewsPicks パブリッシング／2020

本座談会の主題にもなった安宅氏の超話題作。ヘルスケアシステムの改革や、医学・医療の研究・実装へのヒントになるところも多い。

現在の世の中の変化をどう見たらいいのか？ 日本の現状をどう考えるべきか？ 大人はこれからどうサバイバルしていけばいいのか？ この変化の時代、子どもはどう育てればいいのか？ 若者はAIネイティブ時代をどう生きのびていけばいいのか？ 国としてのAI戦略、知財戦略はどうあるべきか？ AI時代の人材育成は？ ファクトベースの現状分析と新たな時代の展望。



#今月の特集関連本⑦



イシューからはじめよ

知的生産の「シンプル」な本質

安宅和人＝著

本体 1,800 円＋税／A5 変判・248 頁／英治出版／2010

イシューとは、「2つ以上の集団の間で決着のついていない問題」であり「根本に関わる、もしくは白黒がはっきりしていない問題」の両方の条件を満たすもの。あなたが「問題だ」と思っていることは、そのほとんどが「今この局面でケリをつけるべき問題＝イシュー」ではない。本当に価値のある仕事をしたいなら、本当に世の中に変化を興したいなら、この「イシュー」を見極めることが最初のステップになる。シン春座談会に登場した安宅氏の究極の問題設定&解決法！



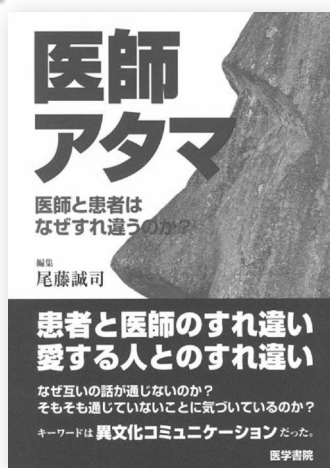
変質する世界

ウィズコロナの経済と社会

Voice 編集部＝編

本体 880 円＋税／新書判・221 頁／PHP 研究所／2020

コロナショックにより、経済や国際関係、人々の価値観はどのように変質したのか？ 安宅氏はこれからのマクロなトレンドを示すキーワードとして「開疎化」をあげ、解剖学者の養老孟司氏は「ウイルスの心配より、健康で長生きしてもやることがないことのほうが問題」と述べる。経済学者のダロン・アセモグル氏はアメリカで最大の被害が出たことから、かの国の歪みについて解説する。その他、各界の第一人者が“ウィズコロナ”の世界を読み解く、傑出した論考 15 編。



医師アタマ

医師と患者はなぜすれ違うのか？

尾藤誠司＝編

本体 2,200 円＋税／A5 判・220 頁／医学書院／2007

医師も患者もハッピーに！ シン春座談会に登場した尾藤氏の編集による「医療コミュニケーション」の突破口をひらく 1 冊。尾藤氏が座談会で語った「新しいヘルスケア」の原点がここに。

EBM を学ぶほどに陥った混乱——「患者にとって常に有益な医療サービスなどない」「ニュートラルに医療情報を伝えるのは難しい」。医師のなかでは当たり前な考え方も、患者には極端で奇天烈なものかもしれないと考えた尾藤氏らが、論理的に evidence-based に、医師と医師以外の世界の違い、医師の思考過程の特殊性に迫った。医師と患者が共に最善の選択を探すうえで必要なものとは？